



親子クイズ

349

■締め切り 平成13年6月15日(金)必着

■あて先

〒783-8501 南国市大堀甲2301

南国市企画課親子クイズ係

■賞品 正解者の中から抽選で、5人に図書券を進呈

◎第348回親子クイズの答えは、「卵塔」でした。

第348回当選者 応募総数 34通



348回解答

高橋 和裕さん (緑ヶ丘)
西本 恵美さん (領石)
棚野 きよ子さん (上末松)
川村 節子さん (伊達野)
土居 夕里奈さん (緑ヶ丘)

Q 南国市内のハウス農家でも栽培しています「A B C D」

タテ①北から南へ流れ、南国市の東南部で太平洋に注ぐ川

- ②〇〇〇を告げる
- ③静岡県に位置する半島の名前
- ④体が筒型で細長い海魚
- ⑦愛媛県の特産品
- ⑨俗世間をのがれて閑居すること
- ⑩志賀直哉の小説「〇〇〇行路」
- ⑪共鳴者のことです
- ⑬春・夏・秋・冬

ヨコ①他人が悲しんで泣いているのに同情し、それにつられて自分も泣くこと

- ⑤雑音のことです
- ⑥重箱の〇〇を楊枝でほじくる
- ⑧横浜〇〇スターズ
- ⑩立派に育って両親を早く〇〇〇〇させたいものです
- ⑫アメリカ合衆国初代大統領の名前
- ⑭大学の構内をこう呼びます

今回の問題は、政木栄富さん(物部)から寄せられた問題です。

みんなの広場

生きがいと社会参加のために
シルバー人材センターの
会員になりませんか！

事務分野

文書管理事務
毛筆筆耕・宛名書き
受付事務など

サービス分野

福祉・家事援助サービスなど

技術・技能を
必要とする分野
ふすま張り・大工仕事
ペンキ塗り・剪定など

管理分野
公民館管理
駐車場管理など

屋内外の一般作業
公園清掃・樹木消毒・除
草・草刈り・包装など

折衝・外交分野
広報などの配布
検針・集金など

専門分野

補習教室講師・翻訳・
通訳・家庭教師・
経理事務・パソコンなど

南国市
シルバー人材センター
のご案内

会員は…

- ①おおむね60歳以上で、健康で働く意欲がある方
- ②臨時的・短期的な就業、または軽易な就業を希望する方
- ③働いた仕事量に応じて「配分金」を受け取ります
- ④センターと雇用関係はありません

シルバー人材センターは公共的、
公益的な団体ですので安心です。

会員はこんな仕事をしています！

※入会と仕事発注のお申し込みは、南国市シルバー人材センター
(南国市日吉町2-3-28 社会福祉センター内 ☎863-4450)まで

～にこなすっへ～

夫と子ども夫婦、孫3人の7人家族で、農業をしています。

国内の温泉地を回ることが最近の夢です。

趣味は、ガーデニングや庭の手入れなどですが、今一番の楽しみは、今年の6月で3歳になる孫の樂と変身ごっこなどをして遊ぶこと。

樂君 今日の怪獣は強いぞ!!

動き回って目が離せず疲れるけれど、孫の成長がとても楽しみです。

南国市は、のどかで環境もよく、住みやすいです。



土居 与千代さん (十市)

息子のハウスで「しょうが・ピーマン」を作っています。家族は、両親・夫・子ども夫婦と3人の孫の9人です。

平凡な毎日が幸せ!

健康体操に2年間通っているおかげで、とても健康です。最近、地域の方々に自分が教えてあげたいと思い指導員の資格を取るための研修を受けています。

南国市、特に十市は環境がよく住みやすいと思っています。しかし、十市をはじめ市内の道路をもっと整備してほしいです。



高橋富士子さん・樂くん (廿枝)

時計博物館3周年記念誌 「時計発達の歴史」作成!

まちの活性化の一翼を目指して開館した時計博物館が、今年6月10日の「時の記念日」で3周年を迎えます。

この博物館には、市内はもとより全国から提供された1,300個を超える腕時計や懐中時計などが展示されており、オープン以来、県内外から約2,500人の方々が来館しています。

今回、開館3周年にあわせて、時計の歴史をまとめた記念誌を作成しました。この記念誌は、市立図書館および、県内の全小学校に寄贈されます。

また、6月8日(金)～10日(日)の3日間、3周年記念イベントを行いますので、ぜひご来館ください。

■記念イベント／現物を目にすることが珍しい「マリンクロノメーター」の開示、複雑時代の代表格「チャイム付の置時計」展示、武内光仁さん(白木谷)の「時の記念日イメージ画」展示など

■開館時間／午前8時～午後6時

■休館日／水曜日 ■入館料／無料

※お問い合わせは、時計博物館 (☎864-2458、ホームページ <http://www.inoryoma.or.jp/nakamura/>) まで



時計博物館 3周年記念誌
「時計発達の歴史」



新しい世紀は、これまでの価値観を見直す世紀。
日ごろから何気なく使用している物のありがたさを認識したとき、そうした物たちへの慈しみの心が芽生え、おのずから未来への「道しるべ」を見い出すでしょう。

時計博物館長 中村 昭弘